

令和5年度

事業報告書



1 救護活動

P3

2 國際活動

P7

3 医療事業

P8

4 看護師養成事業

P10

5 血液事業

P11

6 救急法等の講習

P12

7 赤十字ボランティア

P15

8 青少年赤十字 (JRC)

P16

9 広報活動

P17

10 会員の加入促進と活動資金の募集

P18

11 令和5年度一般会計歳入歳出決算概要

P20

岡山県支部 令和5年度 重点項目

災害救護体制の整備

災害対応能力を向上させ、円滑かつ迅速な医療救護活動を行うため、ハンドル式移動ラックを救護資器材倉庫に導入し、収納力や利便性の向上に努めました。

また、内閣府主催の「避難生活支援リーダー／サポートー研修」に参加し、災害時に被災者を支援する赤十字ボランティアの育成に努めました。



防災・減災の知識・技術の普及促進

新たなプログラムの追加に伴い、「指導者フォローアップ研修」を開催し、指導能力向上を図りました。

県内企業の職員研修において「赤十字防災セミナー」を実施し、企業の地域貢献や防災・減災力の向上に寄与しました。

また、岡山県主催の「大学生災害ボランティア研修会」と連携し、若年層に対しても普及を図りました。



地域包括ケアの推進

フレイル予防に重点をおき、「クロス体操」動画を活用するとともに、脳体力トレーナーなどICTツールを導入することで、地域の方々の健康維持・増進に取り組みました。

また、地域サロン等における講習普及に向けて健康生活支援講習の指導員を養成しました。



救護活動

日本赤十字社が行う災害救護活動は、医療救護やこころのケア、救援物資の配分、血液製剤の供給、義援金の受付など多岐にわたります。これらの活動は、赤十字の理念に基づき独自の判断で自主的に行われますが、災害救助法や災害対策基本法、国民保護法においては指定公共機関として、国や地方公共団体へ協力することも明記されています。

元日に発生した「令和6年能登半島地震」では、救護班の派遣による避難所等での医療救護をはじめ、こころのケアや義援金の受付等を行いました。

● 「令和6年能登半島地震」における救護活動

1月1日の地震発生後、職員数名が参集し、情報収集を開始しました。

日本赤十字社石川県支部からの要請により、5日から災害医療コーディネートチームを石川県庁に派遣し、救護班の活動調整等を行いました。

また、6日からは地震から免れたいのちと健康を守るため、救護班を輪島市や七尾市に継続的に派遣し、避難所の巡回診療や環境改善、こころのケア活動等を3月19日まで実施しました。

令和6年能登半島地震での活動概要は以下のとおりです。

派遣種別	班名	派遣先	要員数	派遣期間	活動内容
災害医療コーディネートチーム	1班	石川県庁	3名	1/5～1/11	救護班活動調整 他機関及び地元地域との連携
	2班	石川県庁	3名	1/31～2/5	
	3班	七尾市	3名	2/27～3/2	
救護班	1班	輪島市	10名	1/6～1/11	救護所設営、診療等
	2班	七尾市	10名	1/19～1/23	避難所の環境改善 こころのケア アセスメント等
	3班	七尾市	9名	2/4～2/8	巡回診療、健康相談 こころのケア等
	4班	七尾市	8名	3/2～3/6	巡回診療、健康相談 ニーズ調査等
こころのケア	調整員	七尾市	1名	2/2～2/10	こころのケア班の活動調整 他機関との連携
	1班	輪島市	3名	3/13～3/19	支援者（行政職員等）の支援活動





●救護班の編成等

災害時、ただちに被災地へ出動し被災者への救護活動が行えるよう、常備救護班9個班（岡山赤十字病院8個班、岡山赤十字玉野病院1個班）を編成するとともに、災害対策本部要員・DMAT要員・薬剤師・血液搬送要員等を任命し、「岡山県支部救護業務計画」に基づく体制を整備しました。

また、災害時における医療ニーズを把握し、関係機関と救護班の活動調整等を行う日赤災害医療コーディネートチームを2チーム編成しました。

救護員の任命状況（人）

	日本赤十字社 岡山県支部	岡山赤十字病院	岡山赤十字 玉野病院	岡山県赤十字 血液センター
常備 救護班		8個班	1個班	
	医師	8	1	
	看護師長	8	1	
	看護師	16	2	
	主事	16	2	
災害対策本部要員	15	11		9
DMAT要員	6	30	1	
薬剤師		7		
血液搬送要員				2
日赤災害医療 コーディネーター		2		
日赤災害医療 コーディネートスタッフ	2	3		

●救護員の訓練・研修

救護員としてのスキル向上を図るとともに他機関との連携を強化するため、次の訓練及び研修会を開催、または参加しました。

訓練・研修会名	実施日	内容
救護員研修（基礎）	令和5年4月15日	避難所での救護活動、災害診療記録、避難所活動機上シミュレーション等
緊急車両走行訓練	令和5年4月22日	緊急車両の特性、点検方法、走行方法等
吉井川総合水防演習	令和5年5月27日	避難所での診療及び避難所環境改善アセスメント訓練
岡山県支部災害対応訓練	令和5年5月31日	災害対策本部の設置演習
第4ブロック合同災害救護訓練	令和5年6月16日、17日	救護班の派遣調整等
こころのケア研修	令和5年7月30日	概論、被災者へのこころのケア、救護員へのこころのケア等
救護員研修（実践）	令和5年10月1日	広域災害救急医療情報システム（EMIS）、広域支援、避難所活動シミュレーション等

第5ブロック合同災害救護訓練	令和5年11月11日	避難所での診療及び避難所環境改善アセスメント訓練
岡山県総合防災訓練	令和5年11月19日	避難所での診療及び避難所環境改善アセスメント訓練
原子力災害対応基礎研修会	令和5年12月4日、5日	放射線影響下での救護活動に必要な知識・技術
救護員フォローアップ研修	令和5年12月9日	避難所の環境改善、DWAT の活動、救護資器材の使い方等

●被災者の支援

県下での火災等による罹災者に対し、地区・分区を通じて救援物資及び弔慰金をお届けしました。

救援物資等配分の内訳

種類	交付基準	配分数
毛布	1人につき1枚	102枚
緊急セット	原則1世帯（4人分）につき1セット	54セット
バスタオル	1人につき1枚	93枚
弔慰金	死亡者1人につき20,000円	320,000円

罹災世帯数等

区分	世帯数
全焼	47世帯
半焼	4世帯
避難	0世帯
その他	14世帯
計	65世帯

死亡	16人
----	-----

●義援金・救援金の受付

令和5年度における受付状況は以下のとおりです。

義援金受付状況

名称	件数（件）	金額(円)
令和5年5月能登地方地震災害義援金	22	483,901
令和5年台風第2号等大雨災害義援金	13	118,420
令和5年6月30日からの大雨災害義援金	22	1,284,062
令和5年7月7日からの大雨災害義援金	34	584,748
令和5年台風第6号災害義援金	7	74,414
令和5年台風第13号災害義援金	19	254,944
令和6年能登半島地震災害義援金	1,447	473,790,885

救援金受付状況

名称	件数（件）	金額(円)
無指定海外救援金	6	403,084
中東人道危機救援金	2	11,000
バングラデシュ南部避難民救援金	1	1,000
アフガニスタン人道危機救援金	4	29,693
ウクライナ人道危機救援金	163	5,774,306
2023年トルコ・シリア地震救援金	64	5,374,138
2023年アメリカ・ハワイ火災救援金	10	106,961
2023年モロッコ地震救援金	10	129,432
2023年リビア洪水救援金	8	118,097
2023年アフガニスタン地震救援金	6	83,925
イスラエル・ガザ人道危機救援金	20	363,333

●災害救護用資器材の整備

災害時の救護活動に欠くことのできない資器材の整備・充実を図り、災害時に有效地に活用できるよう常に点検を行い、万全を期しています。

令和5年度は次の資器材を整備しました。

品目	整備数
衛星電話	1
エアテント	1
タブレット（iPad）	3
台車	1
寝袋	20
ロジスティックスバッグ	2



●臨時救護の実施

不特定多数の人々が集う公共的なイベント・スポーツ大会等において、参加者の安全を図るため、医師・看護師・主事で編成した救護班やボランティアを以下のとおり派遣しました。

実施日	行事名	派遣者数 (人)	取扱傷病者数 (人)
令和5年4月16日	津山加茂郷フルマラソン全国大会	12	15
令和5年8月20日	倉敷ジュニアトライアスロン大会	9	11
令和5年9月10日	倉敷国際トライアスロン大会	18	11
令和5年11月12日	おかやまマラソン	23	34
令和6年2月17日	西大寺会陽	25	4
令和6年2月25日	そうじや吉備路マラソン	12	16
計		99	91

●防災教育事業「赤十字防災セミナー」の開催

地域コミュニティにおける「自助」「共助」の力を高め、災害からいのちを守ることを目的に、町内会・自治会等へ指導者を派遣しました。

カリキュラム名	内容	件数 (件)
災害への備え（講義）	地震・大雨災害などの想定被害を知り、平時の備えの重要性を理解する	20
災害エスノグラフィー	被災者の経験談を通じて、災害を追体験することで被災の具体的なイメージを理解する	4
災害図上訓練（DIG）	地域の防災マップを作成することで、防災上の資源や危険箇所を把握・理解し、個人や地域での防災対策につなげる	8
家具安全対策ゲーム（KAG）	自宅の平面図を描き、地震で起こる被害や家具の安全対策の必要性を把握・理解し、身を守る方法を検討する	7
ひなんじょ たいけん	大地震時に避難所に起こる問題等をカードゲームを通じて理解し、自助・共助の力を高める	1
計		40

赤十字では、国際・国内紛争による被災者への医療や食料等の救援を実施するほか、ジュネーブ条約に基づいて、戦闘に直接参加していない負傷兵や一般市民の保護にあたっています。

また、自然災害等によって被害を受けた被災地への復興支援や防災を通じた地域の基盤づくり等に取り組んでいます。

令和5年度において岡山県支部は、以下の事業を実施しました。

●インドネシア・コミュニティ防災強化事業

災害多発国であるインドネシアに対し、災害対応能力の向上や、防災教育に精通する教職員の育成のために資金的援助を引き続き行いました。



©インドネシア赤十字社

●アジア・大洋州給水・衛生災害対応キット整備事業

中国・四国各県支部と協働で、アジア・大洋州で洪水やサイクロンなどの災害に頻繁に見舞われる国や地域における安全な飲み水の確保や清潔な簡易トイレの設置など、衛生環境を整備するための資金的援助を行いました。

●「NHK 海外たすけあい」キャンペーンの実施

世界各地で紛争や自然災害、感染症などに苦しむ人々のため、令和5年12月1日から25日の期間でNHKと共同で募金キャンペーンを実施しました。

名称	件数(件)	金額(円)
令和5年度（第41回）「NHK 海外たすけあい」	613	8,934,286

岡山赤十字病院（500床）、岡山赤十字玉野病院（83床）、岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム（100床）において、高度急性期医療をはじめ、慢性期医療から回復期まで特色ある医療事業を展開しました。

各施設においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けながらも公的医療機関として、地域の安定的な医療体制を確保するため、地域医療の連携推進を図りながら、地域からの信頼に応えた安心・安全な医療を提供しました。

●岡山赤十字病院

県南東部医療圏の中核病院として、救命救急センターとしての救急医療、地域がん診療連携拠点病院等の先進医療、基幹災害拠点病院としての災害医療・救護など、公的医療機関としての役割を担いました。

新型コロナウイルス感染症については、5類感染症に移行しましたが、「重点医療機関」として岡山県から要請を受け、入院受入のため病床を確保し患者を受け入れました。

そして、外来入口での手指消毒、マスク着用の呼びかけ、検温の実施や飛沫防止パネルの設置、病棟における面会制限を行ったほか、職員の健康管理の徹底などに取り組みました。

令和5年度の患者数は昨年度と比較して、入院は微増、外来は微減となりました。

患者数(人間ドック・健診を除く)

入院	延患者数	138,944人
	1日平均	379.7人
外来	延患者数	268,815人
	1日平均	1,107.1人



●岡山赤十字玉野病院

内科・リハビリテーション科・皮膚科・整形外科に加え、専門外来として呼吸器内科、循環器内科、糖尿病内科、肝臓内科、脳卒中科、心臓血管外科において診療を行い、岡山赤十字病院との連携により急性期及び慢性期の一貫性のある医療を提供しています。

令和5年度は、PACS（医療用画像管理システム）の整備による岡山赤十字病院との画像データネットワークも確立され、近隣の医療機関や介護施設からの紹介による入院のさらなる推進を図ると同時に、終末期医療を希望する患者の受け入れ、併設する老人保健施設との協力による在宅復帰を目的とした医療や介護サービスを行い在宅医療の推進にも努めました。

患者数（人間ドック・健診を除く）

入院	患者数	24,338人
	1日平均	72.4人
外来	患者数	16,712人
	1日平均	68.8人



●岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム

病状が安定した高齢者等の心身の自立を支援し、介護機能を持った包括的ケアサービスを提供する役割を担い、高齢者等の家庭復帰を目指しています。

このため、ショートステイや通所リハビリテーションを提供し、併設する居宅介護事業所での介護保険制度におけるケアマネジメントにより、家族・介護者の介護負担軽減に努め、利用者のニーズに沿ったサービス提供を行いました。

また、令和4年度より在宅復帰超強化型施設へと移行しており、令和5年度も引き続き継続しております。

利用者数

入所	入所者数	31,772人
	1日平均	86.8人
通所	通所者数	5,232人
	1日平均	21.5人



●「赤十字健康講座」等の開催

広く県民の健康維持・増進を図ることを目的に、赤十字各施設が連携し、医師や看護師等が岡山赤十字病院で講演を行う「赤十字健康講座」、地域からの要望により医師等を派遣し講演を行う「健康講演」を毎年企画していますが、健康講座についてはコロナ禍により開催を取り止めました。

なお、I型糖尿病の児童・生徒に低血糖症状等が出た際に教職員が適切に対処できることを目的とした「小児のための研修」を岡山赤十字病院と岡山県教育委員会等が連携し、集合とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。



4

看護師養成事業

●岡山赤十字看護専門学校

赤十字の理念である人道を基調とし、豊かな人間性を育み、保健・医療・福祉の分野をはじめ、災害救護の現場で活躍できる基礎的能力をもった看護実践者を育成することを教育理念としています。

社会における看護ニーズの変化に対応するため、厚生労働省によりガイドラインが示され、当校においても令和4年度より新カリキュラムによる看護教育を行っています。

ICTを活用するための基礎的能力やコミュニケーション能力を強化するとともに、臨床判断を行うための基礎的能力を養うべく学生を支援しました。



学生数

令和6年3月31日現在

1年生	39人
2年生	32人
3年生	37人
計	108人

岡山県赤十字血液センターでは、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤として、治療を必要とする患者のため、医療機関に供給する血液事業を展開しています。採血業者及び製造販売業者としての責務である血液製剤の安全性の確保・向上及び安定供給の確保並びに献血者の保護に努め、確実な血液事業の推進に取り組んでいます。

令和5年度における岡山県の献血者数は、78,200人（対前年度比98.7%）、前年度に比べ1,051人減少しました。

献血種類別では、400mL 献血者が53,481人（対前年度比99.3%）、200mL 献血者が515人（対前年度比73.7%）、成分献血者が24,204人（対前年度比98.0%）でした。

献血者の安定確保のため、献血ルームや献血バスでは、「献血アプリ・ラブラッド」への登録を呼び掛けています。アプリ上で献血予約や事前問診できるため、献血者にとっては待ち時間の短縮に繋がるメリットがあります。また、血液センターにおいても献血者数の見込み数を把握できることにより、不足数の予測が可能となります。

性別・献血種類別献血者数

献血種類	区分			割合
	男	女	計	
200mL 献血	114人	401人	515人	0.7%
400mL 献血	39,346人	14,135人	53,481人	68.4%
血漿成分献血	9,778人	5,934人	15,712人	20.1%
血小板成分献血	8,198人	294人	8,492人	10.8%
計	57,436人	20,764人	78,200人	100.0%

年齢別献血者数

年齢	10代	20代	30代	40代	50代以上	計
献血者数	2,761人	10,106人	10,887人	19,422人	35,024人	78,200人
割合	3.5%	12.9%	13.9%	24.8%	44.9%	100.0%

●献血者確保対策事業

- 普及啓発活動
- 広報活動
- 献血推進組織の育成
- 若年層献血推進対策
- 献血ルームの活性化



●その他の事業

- 骨髓ドナー登録の推進
- 医療機関との連携強化
- 特殊製剤国内自給向上対策事業



6

救急法等の講習

日常生活での事故防止や手当など、健康安全に関する知識・技術を普及するため、地域や職場、学校などに指導員を派遣しました。また、指導員のスキルアップを目的とした研修を実施しました。

なお、接触等を伴う実技が含まれる講習については、日本赤十字社の新型コロナウイルス感染症の「感染対策ガイドライン」に準じて開催しました。

○救急法

病気やけがや災害から自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し、医師または救急隊などに引き継ぐまでの応急手当の知識や技術を普及する講習です。

学校や企業等での急病人やけが人の発生に備え、胸骨圧迫の方法やAEDの使い方を学ぶ一次救命処置などの講習を実施しました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
救急法	基礎講習	38	836	836
	救急員養成講習	10	195	192
	短期講習	186	5,637	
計		224	6,668	1,028

○水上安全法

水を活用して健康の増進を図り、水の事故からいのちを守るための知識や技術を普及する講習です。川への突然の落水など不慮の事故に遭った際に適切に対応してもらえるよう、児童・生徒を中心に着衣泳等を行いました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
水上安全法	救助員Ⅰ養成講習	1	14	12
	救助員Ⅱ養成講習	1	3	3
	短期講習	9	221	
計		11	238	15

●幼児安全法

子どものいのちを守るために必要な接し方や、事故の予防、手当・看病の方法を普及する講習です。

少子化の時代に子どもを社会全体で育むうえで、万が一の事故に備えるため、幼稚園や保育園職員や家族などを対象に乳幼児の一次救命処置等の講習を実施しました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
幼児安全法	支援員養成講習	2	30	28
	短期講習	65	1,558	
計		67	1,588	28

●健康生活支援講習

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、健康の維持・増進と高齢期の自立を促す方法を普及する講習です。

高齢化が進む中でフレイルが社会問題となっており、体操動画を活用したフレイル予防等の健康増進を図る短期講習や支援員養成講習を開催しました。

また、指導員養成講習を開催し、6名の指導員を養成しました。



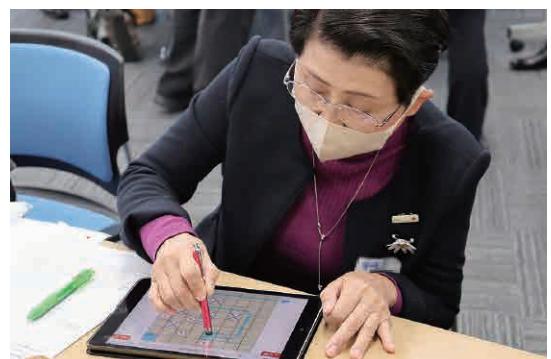
種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
健康生活支援講習	支援員養成講習	3	20	20
	短期講習	74	1,734	
計		77	1,754	20

●健康生活支援講習を柱とした地域包括ケアの推進

少子高齢社会が進む中、子どもから高齢者まで誰もが安心して幸せに暮らすために、「自助」意識の醸成と地域で支え合う「互助」など、人と人とがつながる地域づくりが課題となっています。

地域住民一人ひとりが、生きがいを感じられる社会を共に創っていくことを目指して、いのちと健康、尊厳を守る赤十字講習等を活用し、ボランティアの協力を得ながら他団体との連携・協働の強化を図りました。

今年度はフレイル予防の1つとして、サロン等の認知症の講習に脳体力トレーナー「CogEvo（コグエボ）」を導入し、認知機能を見える化することで異常の早期発見につなげられるような取り組みを開始しました。



赤十字ボランティア

赤十字ボランティアは、会員の募集、救護活動、献血の推進等さまざまな赤十字事業の支援はもとより、地域のニーズに応じた社会活動を行っており、行政が推進する地域福祉の一端を担っています。

●防災ボランティアの体制整備

長期にわたる幅広い災害ニーズに対応し、被災者に寄り添った支援ができるよう、「災害支援ネットワークおかやま」「岡山県災害福祉支援ネットワーク推進会議」等、県下の防災関連ボランティア団体との連携に努めるとともに、総社市社会福祉協議会が設置する「ボランティアセンター運営委員会」に参画し、協働を図りました。

また、内閣府がモデル研修として実施した「避難生活支援リーダー／サポート研修」及び、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）が主催する災害時の連携を考える全国フォーラムに参加し、他業種・多職種と災害時の支援に関する課題等について共有しました。

●赤十字奉仕団の育成・活動推進

地域に根ざして活動を行う中国・四国地方の赤十字奉仕団のリーダーを対象に、中国・四国ブロック赤十字奉仕団研修会を開催しました。赤十字奉仕団についての理解を深めるとともに、超高齢社会における健康寿命の延伸や地域づくりへの貢献に活かせる体験を通して、今後の活動のさらなる推進に繋がるきっかけづくりや赤十字奉仕団員同士の連携強化を図りました。

種別	活動内容
地域赤十字奉仕団	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域における活動資金の募集 ● 地域における防災訓練やイベントへの参加 ● 地域福祉等の活動
青年赤十字奉仕団	<ul style="list-style-type: none"> ● NHK 海外たすけあい街頭募金活動 ● 病院における患者支援活動 ● 献血推進活動
特殊赤十字奉仕団	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害時の救護活動支援 ● 視覚障がい者支援のための点訳教室 ● 水辺の安全啓発活動



8

青少年赤十字（JRC）

青少年赤十字（JRC）は、子どもたちが「人のいのちと健康、尊厳」を大切にする人道的価値観を身につけ行動できるようになることを目指して、教育現場において教員等が指導者となり活動を展開する事業です。

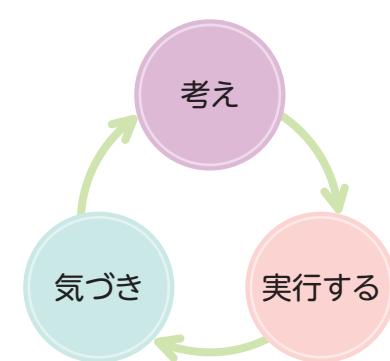
その活動は、「気づき・考え・実行する」という自主性に基づき、世界の青少年赤十字に共通している次の3つの実践目標を掲げて青少年の発達段階や各学校の取り組みに合わせた活動を展開しています。

「国際理解・親善」を目的として隔年で実施している国際交流事業については、東京で開催された国際交流集会に岡山県の代表として高校生メンバー1名が参加しました。

青少年赤十字の実践目標



青少年赤十字の態度目標



青少年赤十字の加盟状況

種別	加盟校（園）数	児童・生徒数（人）			委員会・クラブ等のグループ数
		男	女	計	
幼稚園	2	101	132	233	3
保育所（園）	22	1,008	1,020	2,028	72
認定こども園	7	396	359	755	23
小学校	46	6,264	5,826	12,090	463
中学校	33	3,917	3,808	7,725	122
義務教育校	1	27	17	44	1
高等学校	36	4,165	3,177	7,342	142
中等教育学校	1	101	52	153	9
特別支援学校	4	283	147	430	45
計	152	16,262	14,538	30,800	880



赤十字の理念や活動内容、活動資金の使途について一人でも多くの方々にご理解いただけるよう、広報活動を展開しました。

赤十字の活動を広く伝えるため、テレビ、新聞などに取り上げられるよう報道機関に対し積極的にプレスリリースを発信するとともに、幅広い世代に向けた情報発信を推進するためSNSの活用にも注力しました。

また、県下のあらゆる地域における広報活動で活用いただけるよう、地区・分区に対し活動紹介パネルの貸し出しを行いました。

●広報資材

- 広報紙「赤十字おかやま」の発行
- 地区・分区、協力者等への「赤十字NEWS」の配布
- 県下全域でのポスター掲示
- 会員加入促進のためのリーフレット、チラシの配布
- 事業計画書・事業報告書の配布
- 活動紹介パネルの貸し出し



●メディア広報

- CM放送(テレビ、ケーブルテレビ、ラジオ)
- プレスリリースの発信による取材・報道
- 有功会員の協賛による新聞広告
- 新聞への記事広告の掲載
- SNS (Facebook、Instagram、YouTube) を活用した情報発信



●広報イベント

市町村や団体等の主催によるイベントに対し赤十字ブースを出展し、緊急車両やパネルの展示、キッズ救護員体験コーナーの設置などを行い、赤十字をより身近に感じていただけるよう努めました。



岡山県支部が行う活動は、赤十字会員及び赤十字活動に賛同する方々からお寄せいただく活動資金により支えられています。

赤十字の各種活動を進めるためには、より多くの方々のご理解を得て赤十字会員の増強や活動資金の安定的な確保に努める必要があります。

5月には、「赤十字運動月間」として赤十字会員への加入勧奨を行っています。

また、遺贈・相続財産による寄付の推進やクレジットカード決済等による活動資金募集に努めたほか、ダイレクトメールの協力依頼を強化しました。

●活動資金の件数及び実績額

令和6年3月31日現在

地区名	件数(件)	実績額(円)
岡山市地区本部	48,882	36,340,439
倉敷市地区	48,912	34,742,240
津山市地区	9,071	8,537,000
玉野市地区	8,985	6,586,900
笠岡市地区	9,834	7,047,800
井原市地区	8,409	5,275,250
総社市地区	10,351	9,008,700
高梁市地区	6,192	4,921,600
新見市地区	3,645	3,396,428
備前市地区	4,033	3,294,500
瀬戸内市地区	751	1,331,681
赤磐市地区	5,086	4,247,040
真庭市地区	8,196	6,421,222
美作市地区	5,187	4,184,000
浅口市地区	5,173	4,136,000
和気町分区	2,965	2,319,103
早島町分区	995	622,300
里庄町分区	33	1,318,100
矢掛町分区	3,535	3,319,000
新庄村分区	172	148,500
鏡野町分区	1,820	1,700,000
勝央町分区	1,823	1,680,000
奈義町分区	1,004	1,339,000
西粟倉村分区	358	315,000
久米南町分区	1,002	800,500
美咲町分区	2,393	1,666,000
吉備中央町分区	1,361	1,227,800
支部扱い	5,462	221,212,789
計	205,630	377,138,892

※支部扱い：企業訪問・ダイレクトメール・寄付つき自販機・クレジットカード決済等

●全国赤十字大会

令和5年5月18日に東京都渋谷区の明治神宮会館において「全国赤十字大会」が開催され、岡山県より32人が参画しました。

●日本赤十字社による表彰

多額の活動資金にご協力いただいた方々や赤十字事業への功労者に対する、日本赤十字社による表彰制度があります。

銀色有功章、金色有功章、社長感謝状については、令和5年9月26日に岡山県支部で開催した「日本赤十字社有功章等伝達式」において、伊原木隆太支部長から受章者に伝達を行いました。

令和5年度の受章者数は以下のとおりです。

種別及び受章者数

種別	受章者数	
支部長表彰状	個人	33人
	法人	37社
支部長感謝状	個人	17人
	法人	13社
銀色有功章	個人	10人
	法人	30社
金色有功章	個人	10人
	法人	26社
社長感謝状	個人	2人
	法人	18社

●国による表彰

多額の活動資金にご協力いただいた方々に対し、国による表彰の伝達を行いました。令和5年度の受章者数は以下のとおりです。

種別及び受章者数

種別	受章者数	
厚生労働大臣感謝状	個人	1人
	法人	2社
紺綏褒章	個人	1人
	法人	0社

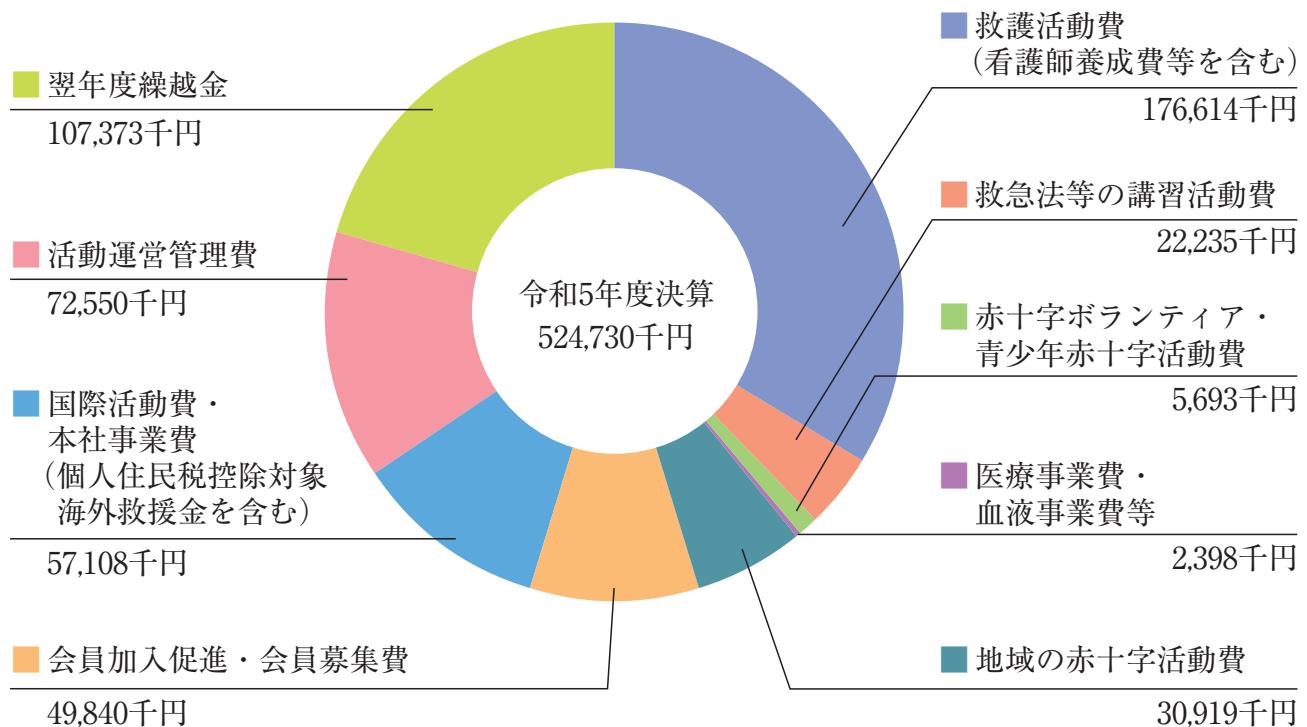
●遺贈・相続財産による寄付の推進

令和元年度より開催している「赤十字終活セミナー」は、近年関心が高まっている「遺贈」や「相続財産による寄付」について学べる場として開催の要望が寄せられていましたが、災害対応のため中止としました。

また、日本赤十字社が「遺贈」や「相続財産による寄付」の受け入れ団体であることを広く周知するため、山陽新聞に4回、広告を掲載しました。

(単位：千円)

科 目	決算額
活動資金（会費および寄付金）収入	377,139
個人住民税控除対象海外救援金	829
本社交付金収入	2,695
資金繰入金収入等	2,366
各種講習教本代等雑収入	7,540
前年度繰越金	134,161
歳 入 計	524,730
救護活動費（看護師養成費等を含む）	176,614
救急法等の講習活動費	22,235
赤十字ボランティア・青少年赤十字活動費	5,693
医療事業費・血液事業費等	2,398
地域の赤十字活動費	30,919
会員加入促進・会員募集費	49,840
国際活動費・本社事業費（個人住民税控除対象海外救援金を含む）	57,108
活動運営管理費	72,550
翌年度繰越金	107,373
歳 出 計	524,730



名簿

日本赤十字社役員名簿（岡山県支部選出）

令和6年3月31日現在

役職名	氏名	公職名	就任年月日
理事	中島 博	ナカシマホールディングス株式会社 代表取締役会長	平成22年4月1日
代議員	末長 範彦	岡山トヨペット株式会社 代表取締役会長	平成18年3月1日
代議員	中島 博	ナカシマホールディングス株式会社 代表取締役会長	平成22年2月14日
代議員	松田 久	岡山商工会議所 会頭・両備ホールディングス株式会社 取締役副会長	平成25年2月14日
代議員	宮長 雅人	株式会社中国銀行 取締役会長	平成28年2月14日
代議員	松山 正春	岡山県医師会 会長	平成31年2月14日

日本赤十字社岡山県支部役員名簿

令和6年3月31日現在

役職名	氏名	公職名	就任年月日
支部長	伊原木 隆太	岡山県知事	平成24年11月12日
副支部長	中島 博	ナカシマホールディングス株式会社 代表取締役会長	平成22年1月23日
副支部長	近藤 隆則	岡山県市長会 会長・高梁市長	令和5年6月7日
監査委員	宮崎 孝司	元川上町長	平成19年1月23日
監査委員	平松 卓雄	前岡山県社会福祉協議会 常務理事	平成30年10月20日
参与	梅木 和宣	岡山県保健医療部長	令和5年8月1日
参与	森 信二	岡山県保健医療部次長	令和5年4月1日

日本赤十字社岡山県支部評議員名簿

令和6年3月31日現在

No.	氏名	選出地区	公職名	就任年月日
1	大森 雅夫	岡山市	岡山市長	平成25年10月9日
2	塩見 槻子	✓	岡山市連合婦人会 会長	平成25年4月1日
3	内田 通子	✓	岡山市社会福祉協議会 会長	平成22年10月26日
4	藤原 繁利	✓	岡山市社会福祉協議会 副会長	平成29年8月14日
5	伊東 香織	倉敷市	倉敷市長	平成20年5月19日
6	中桐 泰	✓	倉敷市社会福祉協議会 会長	平成29年4月1日
7	内田 浩二	✓	倉敷市社会福祉協議会 副会長	令和2年1月18日
8	武則 啓子	✓	倉敷市婦人協議会 会長	令和5年9月8日
9	谷口 圭三	津山市	津山市長	平成30年3月12日
10	柴田 義朗	玉野市	玉野市長	令和3年11月22日
11	小林 嘉文	笠岡市	笠岡市長	平成28年4月24日
12	大舌 熱	井原市	井原市長	平成30年9月16日
13	片岡 聰一	総社市	総社市長	平成19年12月4日
14	近藤 隆則	高梁市	高梁市長	平成21年1月16日
15	戎 斎	新見市	新見市長	令和2年12月23日
16	吉村 武司	備前市	備前市長	令和3年4月24日
17	武久 顕也	瀬戸内市	瀬戸内市長	平成21年7月21日
18	友實 武則	赤磐市	赤磐市長	平成25年4月17日
19	太田 昇	真庭市	真庭市長	平成25年4月24日
20	萩原 誠司	美作市	美作市長	平成26年3月30日
21	栗山 康彦	浅口市	浅口市長	平成22年4月23日
22	太田 啓輔	和気町	和気町長	令和4年4月16日
23	佐藤 博文	早島町	早島町長	令和5年10月11日
24	加藤 泰久	里庄町	里庄町長	平成30年2月5日
25	山岡 敦	矢掛町	矢掛町長	令和4年5月20日
26	小倉 博俊	新庄村	新庄村長	平成26年9月8日
27	山崎 親男	鏡野町	鏡野町長	平成19年2月14日
28	水嶋 淳治	勝央町	勝央町長	平成23年9月12日
29	奥 正親	奈義町	奈義町長	平成31年2月15日
30	青木 秀樹	西粟倉村	西粟倉村長	平成23年9月12日
31	片山 篤	久米南町	久米南町長	平成28年7月24日
32	青野 高陽	美咲町	美咲町長	平成30年12月9日
33	山本 雅則	吉備中央町	吉備中央町長	平成24年10月24日
34	松田 久	支部長	岡山商工会議所 会頭・両備ホールディングス株式会社 取締役副会長	平成25年2月14日
35	松田 正己	✓	株式会社山陽新聞社 代表取締役社長	平成25年2月14日
36	野崎 泰彦	✓	岡山県経営者協会 会長	令和4年2月14日
37	里見 俊樹	✓	R S K 山陽放送株式会社 代表取締役社長	令和5年6月29日
38	三宅 啓一	✓	株式会社大本組 代表取締役社長	令和3年4月1日
39	田村 正敏	✓	岡山県商工会連合会 会長	令和3年5月30日
40	大西 泰子	✓	岡山県婦人協議会 会長	平成30年5月28日
41	梶原 美砂子	✓	岡山県商工会議所女性会連合会 特別顧問	平成10年2月14日

地域赤十字奉仕団名簿

令和6年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	分団数	班数	団員数(人)		
							男	女	計
1	岡山市赤十字奉仕団	昭和21年12月6日	塙見 横子	平成25年4月1日	33	424	0	6,280	6,280
2	岡山市御津赤十字奉仕団	昭和28年5月1日	齊藤 節子	令和3年4月1日	1	6	0	141	141
3	倉敷市倉敷赤十字奉仕団	昭和30年4月1日	大矢 穎子	平成19年4月1日	5	15	0	347	347
4	倉敷市児島赤十字奉仕団	平成11年4月1日	中村 燐子	平成31年4月1日	0	6	0	50	50
5	倉敷市玉島赤十字奉仕団	昭和31年4月1日	瀧澤 英子	平成19年4月1日	1	0	0	20	20
6	津山市赤十字奉仕団	昭和39年5月1日	市村 道恵	令和4年6月30日	0	0	0	27	27
7	玉野市赤十字奉仕団	昭和32年4月1日	平木 由美	令和4年2月16日	0	0	9	8	17
8	笠岡市赤十字奉仕団	昭和42年4月1日	吉岡 祥子	平成27年4月25日	4	4	0	151	151
9	井原市赤十字奉仕団	昭和32年1月1日	上野 寛	令和4年4月20日	0	13	710	144	854
10	総社市赤十字奉仕団	昭和32年4月10日	山口 久子	平成22年6月18日	9	0	0	568	568
11	高梁市赤十字奉仕団	昭和30年4月1日	田村 順子	平成30年4月27日	3	0	0	270	270
12	高梁市有漢町赤十字奉仕団	昭和31年5月21日							0
13	高梁市成羽町赤十字奉仕団	昭和38年9月6日	那須 閑子	令和2年4月1日	1	4	0	105	105
14	高梁市川上町赤十字奉仕団	昭和44年10月6日	小神 英子	令和4年4月11日	0	0	6	89	95
15	新見市赤十字奉仕団	昭和31年12月1日	池永 繁子	平成22年4月1日	0	0	0	71	71
16	新見市大佐赤十字奉仕団	平成14年12月17日	平田 国子	平成19年4月26日	0	0	7	25	32
17	新見市神郷赤十字奉仕団	平成19年4月1日	杉本 千恵子	令和2年4月1日	1	1	1	113	114
18	新見市哲多町赤十字奉仕団	昭和51年2月20日	小川 洋子	令和2年7月16日	1	3	6	43	49
19	新見市哲西町赤十字奉仕団	平成14年4月22日	浅井 郁三	令和3年11月1日	0	0	32	47	79
20	備前市赤十字奉仕団	平成12年7月12日	立川 涼子	平成31年4月1日	7	0	0	134	134
21	赤磐市赤坂赤十字奉仕団	昭和39年4月1日	小西 清美	平成22年4月1日	1	1	0	68	68
22	美作市美作赤十字奉仕団	平成3年4月1日	栗井 澄子	平成26年6月1日	0	0	2	9	11
23	美作市作東赤十字奉仕団	昭和39年4月1日	山本 文子	平成15年4月1日	1	2	0	58	58
24	浅口市金光赤十字奉仕団	昭和38年5月6日	山田 直子	平成20年4月1日	12	21	0	109	109
25	浅口市鴨方赤十字奉仕団	昭和31年6月1日	筒井 由紀子	平成28年4月1日	0	0	0	102	102
26	和気町赤十字奉仕団	昭和46年12月20日	小金谷 香代子	平成26年4月1日	1	1	0	30	30
27	早島町赤十字奉仕団	平成14年1月8日	河田 智子	平成18年4月1日	1	0	0	65	65
28	里庄町赤十字奉仕団	昭和28年4月10日	山田 恵津子	平成20年4月1日	0	0	0	683	683
29	勝央町赤十字奉仕団	昭和32年9月1日	檜尾 富佐子	令和4年12月1日	1	1	17	17	34
30	美咲町赤十字奉仕団	平成17年3月22日	大西 泰子	平成17年3月22日	0	3	0	370	370
31	久米南町赤十字奉仕団	昭和59年4月1日	片山 朋子	平成30年4月1日	3	3	0	144	144
合計					86	508	790	10,288	11,078

青年赤十字奉仕団名簿

令和6年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	団員数(人)		
					男	女	計
1	岡山赤十字看護専門学校学生奉仕団	昭和46年2月16日	伊勢脇 千夏	令和5年4月1日	3	69	72
2	川崎医療福祉大学学生赤十字奉仕団 R.C.Y.Will	平成3年12月15日	杉本 珠花	令和5年4月1日	22	99	121
合計					25	168	193

特殊赤十字奉仕団名簿

令和6年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	団員数(人)		
					男	女	計
1	岡山県赤十字点訳奉仕団	昭和42年7月15日	宇津木 順一郎	昭和46年7月15日	4	14	18
2	岡山ライフセービング赤十字奉仕団	平成11年6月8日	熊澤 一彦	平成30年5月19日	38	8	46
3	岡山県青少年赤十字賛助奉仕団	平成16年4月20日	難波 宏明	令和3年4月1日	26	4	30
4	岡山赤十字災害支援奉仕団	令和2年5月8日	山本 松美	令和2年5月8日	55	24	79
合計					123	50	173

岡山県赤十字有功会役員名簿

令和6年3月31日現在

役職名	氏名	公職名
名誉会長	池田 厚子	
会長	末長 範彦	岡山トヨペット株式会社 代表取締役会長
副会長	松田 久	両備ホールディングス株式会社 取締役副会長
副会長	永山 久夫	岡山プラザホテル株式会社 代表取締役会長
副会長	恵谷 龍二	株式会社ケイコーポレーション 代表取締役社長
会計監査	平田 啓子	西日本株式会社 代表取締役
会計監査	平松 晃弘	平松エンタープライズ株式会社 代表取締役社長
理事	全本 親民	株式会社ソフィア 代表取締役
理事	高木 晶悟	株式会社トマト銀行 取締役社長
理事	千原 行喜	岡山県遊技業協同組合 理事長
理事	高田 美紀子	岡山商工会議所女性会 会長
理事	尾崎 茂	菅公学生服株式会社 代表取締役社長
理事	三宅 啓一	株式会社大本組 代表取締役社長
理事	馬屋原 章	岡山県貨物運送株式会社 取締役副社長
理事	山本 総一	株式会社中国銀行 取締役常務執行役員
理事	里見 俊樹	R S K山陽放送株式会社 代表取締役社長
顧問	岡崎 彬	岡山ガス株式会社 代表取締役会長
顧問	大原 謙一郎	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 理事・会長
顧問	松田 正己	株式会社山陽新聞社 代表取締役社長
顧問	江國 成基	株式会社天満屋 取締役
幹事	上原 育	日本赤十字社岡山県支部 事務局長



 Facebook



 Instagram



 YouTube



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

岡山県支部

〒700-0823 岡山市北区丸の内二丁目7番20号 TEL 086-221-9595 FAX 086-221-9599 <https://www.jrc.or.jp/chapter/okayama/>